

登録コード	F3A52020	開講年度	2026				
授業科目	計算機実習			担当教員	堀場 洋輔		
英文授業名	Computer Literacy			副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限	月曜・4時限	対象学生
講義室	繊維2 8 番講義室		授業形態	実習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 4 Fカリ・先進感性						
	【2023年度以降カリキュラム対象】繊維関連製品群の設計と計測・評価のプロセスを理解する能力				⇔	アルゴリズムとコーディングを十分に習得し、工学分野における諸現象の解析ができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	四則演算から始め、反復処理、条件分岐処理、配列などプログラミングの基本的な技術の習得が主な内容となる。授業の進め方は、教科書の1セクションを1回の分量とし、最初に構文・注意点などを説明し、関連した例題を示す。その後で、1～2題程度の練習問題について演習を行ない、最後に模範解答を示す。						
(5)授業計画	この授業は1コマ100分で実施する。 第1回：概論（計算機と情報処理） 第2回：プログラムの基本構文①（文字列の表示） 第3回：プログラムの基本構文②（整数の計算と入出力） 第4回：プログラムの基本構文③（実数の計算と入出力） 第5回：条件分岐の書き方①（if文） 第6回：条件分岐の書き方②（switch文） 第7回：条件分岐の書き方③（goto文） 第8回：反復処理の書き方①（while文） 第9回：反復処理の書き方②（for文） 第10回：反復処理の書き方③（多重for文） 第11回：配列の使い方①（1次元配列） 第12回：配列の使い方②（2次元配列） 第13回：ユーザー関数の書き方と使い方 第14回：総合的なプログラミング技術を測る試験・授業アンケート						
(6)成績評価の方法	・各回の実習内容の理解を測るプログラミング課題で40％ ・総合的なプログラミング技術を測る試験で60％						
(7)成績評価の基準	プログラミング課題／試験： 授業で説明した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」						
(8)事前事後学習の内容	原則的に授業の最後に、関連したプログラミング課題を出すので、次回授業までに提出すること。また、次回の範囲についても予告するので、事前に予習しておくこと。なお、この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、30時間以上の時間外学習が必要である。						
(9)履修上の注意	・実習では各自のノートパソコンでプログラミング演習を行なうため、ノートパソコンを毎回持参すること。 ・コンピュータの基本操作は習得しておくこと。 ・プログラミングは文法の積み重ねであるため、復習は怠らないこと。						
(10)質問,相談への対応	授業中および授業後に対応する。また、電子メールでも対応する。 電子メール：horiba（アット）shinshu-u.ac.jp						
(11)学生へのメッセージ	プログラミングは言語の習得と同じで、継続が重要です。時間を掛ければ、その分だけプログラミング能力も向上します。						
(12)その他							
【教科書】	ザ・C 第3版 戸川 隼人（著） サイエンス社 1800円（税別）						
【参考書】	指定しない						